



—東地中海地域ニュース—

イスラエル・エジプト：ネタニヤフ首相とムバーラク大統領の会談

(5月12日付現地各紙)

12日付イスラエル、エジプト各紙等は、11日に、エジプトのシャルム・エル・シェイクにおいてネタニヤフ・イスラエル首相とムバーラク・エジプト大統領が会談したことをそれぞれ報じている。各国報道振りの概要は以下のとおり。

イスラエル（12日付アル・クドゥス紙、BBC 電子版）

1. 11日、ネタニヤフ首相は、エジプトのシャルム・エル・シェイクにおいてムバーラク大統領と会談し、「エジプト大統領は勇気ある人物だ」と賞賛し、両国が和平条約を締結して30年を迎えたことを「戦略的な財産」と表現した。一方、ソリマン GIS 長官は同会談を「すばらしかった」と評価した。
2. ネタニヤフ首相の側近は、今回の会談の一つの目的は、来週会談することが予定されているオバマ大統領に対して、現在のネタニヤフ首相が（前首相だった頃から「極右」等と呼ばれていた）かつてのネタニヤフ氏とは違うことを示すことにあると認めた。
3. ムバーラク大統領は、パレスチナがファタハ指導の西岸地区とハマス指導のガザ地区に分断されている状況では中東和平プロセスは進展できないと述べた他、イランの傘下にある（protege）ヒズブッラーがエジプト領土内でスパイ活動を試みたことに関して「ヒズブッラーはエジプトを巻きこもうとしていた」と言及した。
4. ネタニヤフ首相は、（2006年6月以来ハマスに拘束されている）シャリート IDF（イスラエル国防軍）兵士の釈放に向けて、辞任したゲテル捕虜交渉担当官に代わる新たな交渉担当官を近日中にも任命し、交渉を再開する意思があると述べた。また、同首相に同行したベン・エリエゼル産業貿易大臣（労働党）は、ソリマン GIS 長官と会談し、シャリート兵士釈放に向けたエジプト仲介によるイスラエルとハマスの間接交渉の再開について協議した。
5. ネタニヤフ首相は、共同記者会見の中で、「パレスチナ人との和平交渉を再開したいこと、平和、治安及び繁栄の下でイスラエルとパレスチナ人が暮らしていければよいと思う（we would like Israel and the Palestinians to live with prospects of peace, security and prosperity）、但し、平和、治安及び繁栄は3つが揃っていなければならず、どれか一つを犠牲にすることはできない」と述べた（BBC 電子版）。
この発言に対して、PA 大統領広報官は、ネタニヤフ首相の声明は、解決をもたらすものではなく、何の価値もない。イスラエルの二国家解決策の受け入れ、入植地拡大の停止及び道路封鎖の除去がない限り、イスラエルとの政治交渉は行われぬ、経済情勢の向上のみを語るのでは十分ではないとの声明を発表した。

エジプト（現地報道）

1. 11日にシャルム・エル・シェイクで行われたエジプト・イスラエル首脳会談では、中東和平プロセス、イスラエルの入植地問題、ガザでの停戦（タハディア）、パレスチナ国民対話等について議論が行われた。ネタニヤフ・イスラエル首相は、共同記者会見において「パレスチナ国家」、「二国家解決」の表現を使用しなかった。

2. ムバーラク・エジプト大統領発言

- (1) 会談は、穏やかな雰囲気の中で行われ、率直で建設的なものであった。
- (2) 会談で、ネタニヤフ首相に対し、イスラエルの入植活動が今後の和平プロセスに与える否定的影響の懸念を伝達した。ネタニヤフ首相は、イスラエルが平和の実現へ向けて行動することを確認した。我々は、アラブイニシアティブに基づいた二国家樹立によるパレスチナ問題の包括的解決の重要性を強調し、また、アラブ平和イニシアティブに則りパレスチナ問題以外のトラックにも中道が開かれるべきことを強調した。
- (3) 中東における公平で包括的な平和の実現は世界中全ての人々が希求しており、勇気と実行力が必要であるが不可能ではない。
- (4) 会談では、ガザ地区での停戦（タハディア）の定着化、ガザ地区通行所の開通、経済封鎖の解除、ガザ地区復興支援、ハマス・イスラエル間捕虜交換交渉等についても協議された。

2. ネタニヤフ・イスラエル首相発言

- (1) エジプト・イスラエル間の平和は両者にとって大きな戦略的資産である。エジプトの実施しているテロ分子の取締に関する努力は和平プロセスの進展のために重要である。
- (2) 我々は隣人であるパレスチナとの平和の拡大が、イスラエルとパレスチナが互いに平和で安定した生活を実現する事を希求している。
- (3) 我々は、出来るだけ早く（数週間以内に）パレスチナ側との和平交渉を再開する準備がある。我々は、イスラエル・パレスチナ両者間の経済協力の円滑的な実施を求める。
- (4) 中東問題は宗教間対立でも、民族間対立でもなく過激派と穏健派の間の抗争である。
- (5) イスラエルとパレスチナ及びアラブ諸国は古来より同じ土地に住んでおり、今回の訪問はユダヤ民族とアラブ大共同体の関係強化に貢献するものとする。